

一五二七番

彦星し ひこほし 妻迎へ舟 つまむかぶね 漕ぎ出らし ここ 天の川原に あまかはら 霧 きり  
の立てるは た

一五二八番

霞立つ かすみた 天の川原に あまかはら 君待つと きみま い行き返るに ゆかへ  
裳の裾濡れぬ もすそぬ

一五二九番

天の川 あまがは 浮津の波音 うきつなみおと 騒くなり さわ 我が待つ君し あままきみ  
舟出すらしも ふなで